

地域産業を支える次代の技能者育成

香川県立高等技術学校

香川県立高等技術学校は、次代を担う技能者を育成する公共職業能力開発校です。若年者から離転職者まで幅広い年齢層に対し、ものづくりを基本とした職業訓練を行っています。技術専門コースは「電気・自動車・建築・機械」の4科からなり、2年間の課程で、高度な技能と知識を兼ね備えた技能者を育てます。また、求職者向けコースは、6カ月から1年間の課程で、再就職のために必要な専門知識と技能を習得します。

いずれのコースも専門分野に必要な資格取得に積極的に取り組み、少人数クラスで個人指導に重点を置いています。一人一人の能力や希望に応じた就職サポートにより、高い就職率となっています。

興味・関心のある方は、お気軽にお問い合わせください。



(問い合わせ先) 香川県立高等技術学校 総務課
高松市郷東町587-1 ☎087-881-3171
<https://www.pref.kagawa.lg.jp/takamatugijutsu/>



木村浩社長

ケーブルは電力、制御信号、通信データなどさまざまなものを伝えます。素材となる太い銅線は、そのまま折り曲げるとすぐに断線するので、数ミリ径の銅線をまず人間の髪の毛以下の細さまで引き伸ばした「素線」に加工し、それを複数本よること、しなやかで強靱な「導体」を作ります。導体に絶縁体を被覆したものが「コア」。用途に合わせて複数のコアをまとめて被覆した「ケーブル」、そこに接続用のコネクタを取り付けた「ハーネス加工製品」、いずれもニーズに合わせた販路があります。

試行錯誤が面白い
ある電力用ケーブルのニーズにも応えつつ、最新のがん治療などに使われる医療用をはじめ、新製品の拡充にも意欲的です。「コアになる技術が確立しているからこそ、新しい挑戦は続けていくべきだと思っています」と木村さんは力を込めます。

同社のケーブルの強みは、優れた耐久性です。電子部品実装機や小型産業ロボットなどに使われるケーブルは性能に対する要求が多様で「高速の動きに耐えるもの」「ねじりに強いもの」「屈曲に負けないもの」「より細いもの」といったそれぞれ違う特性が求められる、オーダーメイドの世界。「適切な樹脂を選ぶとか素線を細くするとか、ものづくりのセオリーはいろいろありますが、一番重要なことはお客さまのニーズを的確に引き出す対話力と、それに対応できる設計力です。試行錯誤する過程が、大変だけど面白い」と木村さん。「ロボットはどんどん複雑化していきますから、そのトレンドについていくためにも、設計・開発力を磨いていかななくてはなりません」。

同社では営業職でも専門的な技術の話ができる知識を備え、レスポンスが早いことも特徴。「理系の基礎知識・学力があれば、技術は後からいくらでも身に付きます。スピード感と変化のある、面白い仕事だと思えますよ」という木村さんの笑顔からは、ものづくりにかける情熱と自負がうかがえました。

問い合わせ先
(公財)かがわ産業支援財団 取引支援課
☎087-868-9904

ロボットケーブルで全国シェアトップ3
家庭に電気を供給する電力用ケーブルから、自動車やスマートフォンなどを組み立てるロボットに使われるケーブルまで、吉野川電線株式会社は、さまざまなシーンで私たちの暮らしに関わっています。用途によってサイズはもちろん、求められる性能も多岐にわたり、それぞれのニーズに応える柔軟な設計・開発力が同社の強みです。

参入したロボットケーブルが、現在は全国シェアトップ3に入るほどの主力部門。特にケーブルに高い耐久性が要求される、プリント基板に電子部品を高速で取り付ける電子部品実装機用のケーブルや、電子機器の組み立てなどに使用される小型産業ロボット用のケーブルはトップクラスのシェアを誇ります。「業界でのイメージは『ロボットケーブル得意とする会社』ではないでしょうか。ロボットケーブルを作る企業はたくさんありますが、売り上げの7割を占めるほど重点的な事業となっている会社は珍しいと思います」と、代表取締役社長の木村浩さん。原点で

挑戦する かがわの ものづくり企業

電信柱と住宅を結ぶケーブル(電線)、ものづくりの現場、テーマパークのアトラクション...電力や通信を伝えるケーブルは、それぞれ異なるニーズがあり、仕様もさまざま。高い設計力でその一つ一つの的確に応える、香川のものづくり企業を紹介します。

吉野川電線株式会社

(住所) 高松市小村町331番地
(創業) 1948年
☎087-847-5161
<http://www.yoshinogawa-densen.jp/>

